国際的なクロマグロ市場規模の推計と完全養殖の可能性

有路昌彦・多田　稔
（流通・リスク分析グループ）
近畿大学大学院農学研究科

マグロ類は我が国の水産物消費の中でも重要な位置を占め，約 55 万トンが刺身需要として消費されている。最も高級なクロマグロはその 1 割弱を占めるが，価格は最も高く，金額的なウエイトは大きい。わが国では 44000 トンは消費されているといわれ，単価が 3000 円/ kg 以上の水産物の消費としては最大である。しかし世界的な資源の減少から，漁獲規制は強められつつある。同じく天然漁獲に依存する蓄養もこの漁獲規制の範疇にあり，今後の増産が非常に難しい状態にあることは明確である。

一方で実際の世界でのクロマグロ需要量はいまだ正確には把握されておらず，漁獲規制がどのように国際的な市場に影響を与えるかは不明確であるため，本分析はまずその点を明らかにすることで，市場規模の推計を行う。次に漁獲規制が行われた場合の供給量の減少は，完全養殖のマーケットを作ることも同時に意味し，その規模の推計は，完全養殖の可能性を予測することにもなる。

クロマグロ市場規模　現在，クロマグロは主に太平洋，北大西洋，地中海で漁獲されており，公式（FAO および ICCAT 報告）には近縁種のミナミマグロを合わせて 2007 年時点で，63000 トンの漁獲量になる。一方，蓄養による養殖生産量は約 38000 トンにのぼる。地中海クロマグロの 19000 トンは蓄養に回されているとされるため，63000 トンから引いて 38000 トン加えた，82000 トンが公式の情報に基づくクロマグロの全世界の生産量になる。

しかし ICCAT の報告によると地中海と北大西洋の密漁は約 30000 トンに達し，全世界の生産量は合計で約 112000 トンになる。つまり少なくとも全世界にクロマグロ需要が 112000 トン存在することになり，その上で，3000 円/kg～4000 円/kg の価格が成立していると考えることができる。

漁獲規制の影響　ICCAT の 2009 年度の決定として，大西洋および地中海のクロマグロ漁獲枠は 13500 トンが確定している。2007 年では 35000 トンだった漁獲量が 20000 トン以上削減されることを意味し，そのインパクトは大きい。しかしこの決定の背景には，「毎年 8000 トンの漁獲量を設定したとしても 2023 年までに東部大西洋クロマグロの資源が回復する可能性は 50%しかないとするシミュレーション結果」に基づいており，その意味で言うと，密漁も同様に資源の状態の影響で大幅に減少していくものであると考えられる。

また WCPFC の会合では来年度より現状の漁獲量の維持という形での漁獲規制の実施が決定しており，このことは全世界天然の漁獲量は 2007 年と比較して半減することを意味している。

完全養殖の可能性　このように天然漁獲量（および蓄養）の減少が確実なものになってくると，完全養殖の可能性は大きくなる。現在単純に 50000 ト

ンほど発生するとみられる供給不足は 4000 円/kg として約 2000 億円の生産物市場が完全養殖によって賄われる可能性があることを意味している。